

6

用紙の仕様

用紙とは、普通紙、厚紙、OHP フィルム、ラベル、封筒のことです。最後の 4 つは専用紙と呼ばれることもあります。本機では、さまざまな用紙に高品質な印刷を行うことができます。印刷前に、用紙に関連する多くの事柄を考慮に入れておく必要があります。この章では、用紙の選択および扱い方について説明します。

用紙についてのガイドライン

プリンタに適した用紙を選択すると、印刷上の問題を防ぐことができます。

以下のセクションでは、プリンタに適した正しい用紙を選択するためのガイドラインについて説明します。

用紙

最高の印刷品質と給紙の信頼性を確保するには、90 g/m² (24 lb) ゼログラフィ縦目用紙を使用します。一般的なビジネス用途向けに設計されたビジネス用紙でも十分な印刷品質を得ることができます。

どのような種類の用紙であっても、大量に購入する前に、必ずサンプルを印刷してください。用紙を選択する場合は、重さ、繊維含有率、色を考慮してください。

LED 印刷処理では、非 MICR アプリケーションの場合、用紙の温度が熱により 230°C (446°F) の高温になります。退色、にじみ、または有毒ガスの放出を伴わずにこの温度に耐えられる用紙のみを使用してください。選択した用紙をレーザープリンタで使用できるかどうかを判断するには、メーカーまたはベンダに問い合わせてください。

用紙をセットする場合は、用紙のパッケージに記載されている推奨印刷面に注意し、それに従ってセットします (⇒「標準カセットおよびオプションカセットに用紙をセットする」)。

用紙特性

以下の用紙特性は、印刷の品質と信頼性に影響します。新しい用紙を評価する場合は、このガイドラインに従うことをお勧めします。

用紙の仕様

重さ

プリンタは、60 ~ 176 g/m² (16 ~ 47 lb ポンド) 縦目の用紙を自動的に取込みます。

60 g/m² (16 lb) より軽い用紙は、適切に取り込むには堅さが足りず、紙づまりの原因となります。最適なパフォーマンスを実現するには、90 g/m² (24 lb ポンド) 縦目の用紙を使用してください。182 × 257 mm (7.2 × 10.1 インチ) より幅が狭い用紙を使用する場合は、重さが 90 g/m² (24 lb ポンド) 以上の用紙を使用することをお勧めします。

カール

カールとは、用紙の先端が丸まる傾向のことです。カールが大きすぎると、用紙の取り込み時に問題が発生することがあります。カールは、高温になっているプリンタ内部を用紙が通過した後に発生することがあります。包装されていない用紙を高温、多湿、低温、または乾燥した状態で保管すると、それがカセット内であっても印刷前に用紙がカールすることがあり、取り込みの問題の原因となります。

平滑度

用紙の平滑度は、印刷品質に直接影響します。用紙のきめが粗すぎる場合、トナーが適切に定着せず、印刷品質の低下を招きます。用紙が滑らかすぎると、用紙の取り込みや印刷品質の問題の原因となることがあります。平滑度は、100 ~ 300 シェフィールドポイントである必要があります。ただし、最高の印刷品質は 150 ~ 200 シェフィールドポイントの平滑度で実現されます。

含水率

用紙に含まれる水分の量は、印刷品質とプリンタの適切な用紙取り込みの両方に影響します。用紙は、使用するときまで元の包装に入れたままにしておいてください。これにより、用紙が湿度の変化にさらされてパフォーマンスが低下する可能性を最小限に抑えることができます。

用紙が元の包装に入っている間に、用紙の状態を調整してください。用紙の状態を調整するには、印刷前 24 ~ 48 時間は用紙をプリンタと同じ環境に保管し、用紙が新しい状態で安定するようにします。保管または輸送環境がプリンタ環境と大きく異なる場合は、時間を数日延ばしてください。厚い用紙の場合も、量が多くなるため、より長時間の調整が必要になる場合があります。

紙目

紙目とは、用紙の繊維の方向のことです。紙目には、用紙の縦方向に延びる縦目と用紙の横方向に延びる横目があります。

60 ~ 90 g/m² (16 ~ 24 lb ポンド) の用紙の場合は、縦目の繊維を推奨します。

繊維含有率

最高品質のゼログラフィ用紙は、100% の化学処理済みパルプ木材から作られています。この含有率により、用紙の安定度が高まるとともに、用紙の取り込みの問題が減少し、印刷品質が向上します。コットンなどの繊維を含む用紙には、用紙の取扱いを低下させる可能性のある特性があります。

使用できない用紙

次の用紙は、プリンタで使用しないでください。

- ノーカーボン紙、感圧複写紙（CCP）、またはカーボン不要（NCR）紙とも呼ばれる、コピーの作成に使用される化学処理済みの用紙
- プリンタを汚染する可能性のある化学薬品を使用したプレプリント用紙
- プリンタフューザの温度の影響を受ける可能性のあるプレプリント用紙
- 光学式文字認識（OCR）フォームなど、 ± 2.3 mm (± 0.09 インチ) よりも高い精度で位置合わせする必要があるプレプリント用紙

場合によっては、ソフトウェアアプリケーションで位置合わせを調整して、これらのフォームに正常に印刷できることがあります。

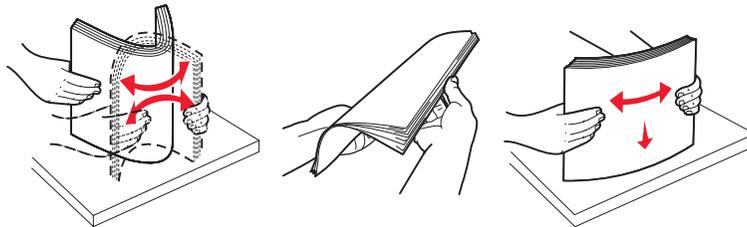
- コーティングされた用紙（消去可能ボンド）、合成紙、感熱紙
- 縁がぎざぎざな用紙、表面のきめが粗い用紙、ざらつきのある用紙、またはカールした用紙
- 消費材廃棄物の含有率が 25% を超える、DIN 19309 を満たさない再生紙
- 重量が 60 g/m^2 (16 lb) 未満の用紙
- マルチパートフォームまたはドキュメント

用紙を選択する

適切な用紙をセットすることで、紙づまりを防ぎ、問題のない印刷を行うことができます。

紙づまりと印刷品質の低下を防ぐには

- 必ず新しく損傷のない用紙を使用する。
- 用紙をセットする前に、用紙の推奨印刷面を確認する。通常、この情報は用紙のパッケージに記載されています。
- 手で切った用紙は**使用しない**。
- 大きさ、重さ、種類が異なる用紙を 1 つのカセットに**セットしない**。これらを混在させると紙づまりが発生します。
- 電子写真印刷用に特に設計されていない限り、コーティングされた用紙を**使用しない**。
- 自動大きさ検知機能をサポートしない給紙源を使用する場合は、用紙の大きさの設定を**必ず変更する**。
- ジョブの印刷中、または操作パネルで【ビジー】が点滅しているときは、カセットを**取り外さない**。
- [用紙の種類]、[用紙重さ（厚さ）] が正しく設定されていることを確認する（⇒説明書類 CD 内に収録されている『メニューとメッセージガイド』の「用紙メニュー」）。
- 用紙がカセットに正しくセットされていることを確認する。
- 用紙を上下にまげてほぐす。用紙を折ったり畳んだりしないでください。平らな面で端を揃えます。



用紙を保管する

用紙の取り込み時の問題を防いで印刷品質を安定させるため、以下のガイドラインに従ってください。

- 温度約 21°C (70°F)、相対湿度 40% の環境で用紙を保管する。
- 用紙をダンボール箱に入れ、台の上か棚において床より高い場所で保管する。

- 梱包された用紙を元のダンボール箱から出して保管する場合は、平らな場所に保管し、用紙の端がゆがんだりカールしたりしないようにする。
- 梱包された用紙の上には何も置かない。
- 用紙は、使用するときまで元の包装に入れて保管する。

プレプリントフォームとレターヘッド紙を選択する

プリンタのプレプリントフォームとレターヘッド紙を選択する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- 60 ~ 90 g/m² の重さの縦目用紙を使用する。
- オフセットリトグラフ印刷または写真版印刷処理を使用して印刷されたフォームおよびレターヘッド紙のみ使用する。
- 表面のきめが粗い用紙やざらつきが大きい用紙は避ける。

ゼログラフィコピー機用に設計された耐熱インクを使用して印刷された用紙を使用してください。このインクは、溶解したり有毒ガスを放出したりせずに 230°C (446° F) までの温度に耐えられる必要があります。トナーの樹脂に影響されないインクを使用してください。酸化状態または石油を主成分としたインクはこれらの要件を満たすはずですが、ラテックス製インクはこれらの要件を満たさない場合があります。判別できない場合は、用紙の供給元に問い合わせてください。

レターヘッド紙などのプレプリントされた用紙は、溶解したり有毒ガスを放出したりせずに 230°C (446°F) までの温度に耐えられる必要があります。

レターヘッド紙に印刷する

選択したプレプリントレターヘッド紙をレーザープリンタで使用できるかどうかを判断するには、メーカーまたはベンダにお問い合わせください。

レターヘッド紙に印刷する場合は、用紙方向が重要です。レターヘッド紙を給紙源にセットする場合は、次の表を参照してください。

給紙源または処理	印刷面	ページの上端
カセット	印刷されたレターヘッドを下に向ける	レターヘッドをカセットの後方に向けます。
カセットからの両面印刷	印刷されたレターヘッドを上に向ける	レターヘッドをカセットの前方に向けます。
多目的フィーダ	印刷されたレターヘッドを上に向ける	各用紙サイズの正しい方向は、多目的フィーダ上のアイコンに示されています。
多目的フィーダからの両面印刷	印刷されたレターヘッドを下に向ける	各用紙サイズの正しい方向は、多目的フィーダ上のアイコンに示されています。

OHP フィルム

OHP フィルムは、標準カセットまたは多目的フィーダから給紙します。プリンタでの使用を検討している OHP フィルムを大量に購入する前に、その OHP フィルムにサンプルを印刷してください。

OHP フィルムに印刷する場合

- プリンタの損傷を防ぐため、プリンタドライバ、または MarkVision™ Professional で、[用紙の種類] を [OHP フィルム] に設定する。
- レーザープリンタ用に設計された OHP フィルムを使用する。溶解、退色、ずれ、または有毒ガスの放出を伴わずに 230°C (446°F) までの温度に耐えられる OHP フィルムを使用する。
- 印刷品質に関する問題を防ぐために、OHP フィルムに指紋が付着しないようにする。
- OHP フィルムをセットする前に、フィルムの束をパラパラめくって、くっつかないようにする。

OHP フィルムを選択する

本機では、レーザープリンタ用に設計された OHP フィルムに直接印刷できます。印刷品質と耐久性は、使用する OHP フィルムによって異なります。使用を検討している OHP フィルムを大量に購入する前に、必ずその OHP フィルムにサンプルを印刷してください。

紙づまりの発生を防ぐために、[用紙の種類] を [OHP フィルム] に設定してください (⇒説明書類 CD に収録されている『メニューとメッセージガイド』の「用紙の種類」)。メーカーまたはベンダにお問い合わせ、OHP フィルムがレーザープリンタによる 230°C (446°F) までの加熱に耐えられることを確認してください。溶解、退色、ずれ、または有毒ガスの放出を伴わずにこのような高温に耐えられる OHP フィルムのみを使用してください。

封筒

プリンタでの使用を検討している封筒を大量に購入する前に、その封筒にサンプルを印刷してください。封筒のセットの手順については、「多目的フィーダに用紙をセットする」を参照してください。

封筒に印刷する場合

- 可能な限り最高の印刷品質を得るには、レーザープリンタ専用の高品質封筒を使用する。
- 操作パネル、プリンタソフトウェア、または MarkVision Professional の [用紙メニュー] で、使用する給紙源に基づいて [給紙源] を設定し、[用紙の種類] を [封筒] に設定してから、正しい封筒サイズを選択する。
- 最適なパフォーマンスを実現するには、90 g/m² (24 lb ポンド) の用紙から作られた封筒を使用する。コットン含有率が 25% 以下の場合、250 枚標準カセットには 105 g/m² (28 lb ポンド) までの重量の封筒を使用する。コットン含有率が 100% の封筒は、重量が 90 g/m² (24 lb ポンド) 以下である必要があります。
- 新しく損傷のない封筒のみ使用する。
- パフォーマンスを最適化し、紙づまりを最小限にするため、以下のような封筒は使用しない。
 - カールやねじれが大きい封筒
 - 封筒同士が張り付いているものや、何らかの損傷のある封筒

用紙の仕様

- 窓、穴、ミシン目、切り抜き、またはエンボスのある封筒
- 金属製の留め具、ひも、または金属製の折れ筋のある封筒
- 組み合わせたデザインのある封筒
- 切手が貼付されている封筒
- 垂れ蓋に封をしたとき、または閉じたときに接着剤がはみ出る封筒
- 端に刻み目があるかまたは角が折れ曲がった封筒
- きめの粗い、しわのある、またはすの目仕上げの封筒
- 封印、過度のカール、しわ、または有毒ガスの放出を伴わずに 230°C (446°F) までの温度に耐えられる封筒を使用する。使用を検討している封筒に不明な点がある場合は、封筒の供給元に問い合わせてください。
- 高い湿度（60% 以上）と高い印刷温度が組み合わされると、封筒に封がされることがあります。

ラベル

本プリンタは、レーザープリンタ用に設計された多くのラベルに印刷できます。ラベルには、レターサイズ、A4 サイズ、リーガルサイズがあります。ラベルの接着剤、前面シート（印刷用ストック）、表面コーティングが、230°C（446°F）の温度と 25 psi の圧力に耐えられる必要があります。

使用を検討しているラベルを大量に購入する前に、そのラベルにサンプルを印刷してください。

ラベルに印刷する場合

- [用紙] メニューで、[用紙の種類] メニュー項目を [ラベル] に設定する。プリンタの操作パネル、プリンタドライバ、または MarkVision Professional で [用紙の種類] を設定する。
- ラベルを用紙または OHP フィルムと一緒に 1 つの給紙源にセットしない。これらを混在させると、用紙の取り込み時に問題が発生することがあります。
- 裏面がつやのある素材でできているラベルは使用しない。
- ダイカットから 1 mm（0.04 インチ）以内には印刷しない。
- ラベル用紙全体を使用する。用紙の一部だけを使用すると、印刷時にラベルがはがれ、紙づまりが発生することがあります。また、接着剤でプリンタやカートリッジが汚染され、プリンタやカートリッジの保証対象外となることもあります。
- 230°C（446°F）以下の温度で封印されたり、過度のカールやしわの発生、または有毒ガスの放出を伴わないラベルを使用する。
- ラベルの端やミシン目から 1 mm（0.04 インチ）以内、またはラベルのダイカット間には印刷しない。
- 用紙の端に接着剤がついているラベル用紙を使用しない。接着剤のゾーンコーティングが、端から少なくとも 1 mm（0.04 インチ）離れているラベルの使用をお勧めします。接着剤によってプリンタが汚染され、保証対象外となることがあります。
- 接着剤のゾーンコーティングが不可能な場合は、リーディングエッジとドライバエッジで 3 mm（0.125 インチ）の細片を取り除き、にじみ出てこない接着剤を使用する。
- ラベルがプリンタ内ではがれないように、リーディングエッジから 3 mm（0.125 インチ）の細片を取り除く。
- バーコードを印刷する場合は、できるだけ縦方向に印刷する。
- 接着剤が露出しているラベルは使用しない。

厚紙

厚紙は単一の層から成っており、含水率、厚さ、テクスチャなどのさまざまな特性が印刷品質に大きく影響します。用紙の紙目と推奨重量については、「給紙源と仕様を確認する」を参照してください。

使用を検討している厚紙を大量に購入する前に、そのラベルにサンプルを印刷してください。

用紙の推奨重量については、「用紙の種類と重さ」を参照してください。

厚紙に印刷する場合

- 操作パネル、プリンタドライバ、または MarkVision Professional で、[用紙メニュー] の [用紙の種類] を [厚紙] に設定する。[用紙重さ (厚さ)] を [厚紙の重さ] に設定し、[厚紙の重さ] を [普通] または [重] に設定します。これを操作パネル、プリンタドライバ、または MarkVision Professional から設定します。重量が 163 g/m² (90 lb) より重い厚紙の場合は、[重] に設定します。
- プレプリント、ミシン目、折り目は、印刷品質に大きな影響を与えることがあり、用紙の処理や紙づまりに関する問題を引き起こす可能性があることに注意する。
- 加熱すると有毒ガスを放出する可能性がある厚紙の使用を避ける。
- プリンタを汚染する可能性のある化学薬品を使用して製造されたプレプリント厚紙は使用しない。プレプリントから、半液体または揮発性の成分がプリンタに流れ込んでしまいます。
- できるだけ縦目の厚紙を使用する。

その他の用紙を保管する

用紙の適切な保管については、次のガイドラインを参照してください。これらのガイドラインは、給紙時の問題を防いで印刷品質を安定させるために役立ちます。

- 最良の印刷結果を得るために、温度が約 21°C (70°F)、相対湿度が 40% の環境に印刷用紙を保管する。ほとんどのラベルメーカーは、温度が 18 ~ 24°C (65 ~ 75°F)、相対湿度が 40 ~ 60% で印刷することを推奨しています。
- 用紙をダンボール箱に入れ、台の上か棚において床より高い場所で保管する。
- 梱包された用紙を元のダンボール箱から出して保管する場合は、平らな場所に保管し、用紙の端がゆがんだりカールしたりしないようにする。
- 梱包された用紙の上に物を置かない。

給紙源と仕様を確認する

以下の表に、標準およびオプションの給紙源、[用紙サイズ]メニューから設定可能な用紙サイズ、サポートされる重さを示します。

メモ：表に記載されていない用紙サイズを使用する場合は、その次に大きな用紙を選択してください。

用紙サイズとサポート

凡例 ✓ — サポート ✗ — 非サポート						
用紙サイズ 寸法		550 枚 カセット	多目的 フィーダ	オプションの 高容量 フィーダ	オプションの 両面印刷 ユニット	オプションの フィニッシャ ****
A3	297 × 420 mm (11.7 × 16.5 インチ)	✓	✓	✗	✓	✓
A4	210 × 297 mm (8.27 × 11.7 インチ)	✓	✓	✓	✓	✓
A5	148 × 210 mm (5.83 × 8.27 インチ)	✗	✓	✗	✓	✓
JIS B4	257 × 364 mm (10.1 × 14.3 インチ)	✓	✓	✗	✓	✓
JIS B5	182 × 257 mm (7.17 × 10.1 インチ)	✗	✓	✗	✓	✓
レター	215.9 × 279.4 mm (8.5 × 11 インチ)	✓	✓	✓	✓	✓
リーガル	215.9 × 355.6 mm (8.5 × 14 インチ)	✓	✓	✗	✓	✓
エグゼクティブ	184.2 × 266.7 mm (7.25 × 10.5 インチ)	✗	✓	✗	✓	✓
フォリオ	216 × 330 mm (8.5 × 13 インチ)	✗	✓	✗	✓	✓
ステートメント	139.7 × 215.9 mm (5.5 × 8.5 インチ)	✗	✓	✗	✗	✗
タブロイド	279 × 432 mm (11 × 17 インチ)	✓	✓	✗	✓	✓
ユニバーサル*	69.85 × 127 mm ~ 297 × 1219.2 mm (2.75 × 3.5 ~ 11.69 × 48 インチ) ***	✗	✓	✗	✗	✗
* 用紙の大きさがソフトウェアアプリケーションで指定されていない限り、用紙または封筒を 297.0 × 1219.2 mm (11.7 × 48 インチ) に書式設定します。						
** 測定値は、片面印刷にのみ適用されます。両面印刷の場合、最小サイズは 139.7 × 210 mm (5.50 × 8.27 インチ) です。						
*** 用紙の大きさがソフトウェアアプリケーションで指定されていない限り、用紙または封筒を 216.0 × 355.6 mm (8.5 × 14 インチ) に書式設定します。						
**** フィニッシャトレイ 1。フィニッシャトレイ 2 には、A4 サイズおよびレターサイズ以外給紙できません。						

用紙の仕様

用紙サイズとサポート（続き）

凡例 ✓ — サポート ✗ — 非サポート						
用紙サイズ 寸法		550 枚 カセット	多目的 フィーダ	オプションの 高容量 フィーダ	オプションの 両面印刷 ユニット	オプションの フィニッシャ ****
7 3/4 封筒 (Monarch)	98.4 × 190.5 mm (3.875 × 7.5 インチ)	✗	✓	✗	✗	✗
9 封筒	98.4 × 225.4 mm (3.875 × 8.9 インチ)	✗	✓	✗	✗	✗
Com10 封筒	104.8 × 241.3 mm (4.12 × 9.5 インチ)	✗	✓	✗	✗	✗
DL 封筒	110 × 220 mm (4.33 × 8.66 インチ)	✗	✓	✗	✗	✗
C5 封筒	162 × 229 mm (6.38 × 9.01 インチ)	✗	✓	✗	✗	✗
B5 封筒	176 × 250 mm (6.93 × 9.84 インチ)	✗	✓	✗	✗	✗
その他の封筒***	104.8 × 210 mm ~ 215.9 × 355.6 mm (4.125 × 8.27 インチ ~ 8.5 × 14 インチ)	✗	✓	✗	✗	✗
<p>* 用紙の大きさがソフトウェアアプリケーションで指定されていない限り、用紙または封筒を 297.0 × 1219.2 mm (11.7 × 48 インチ) に書式設定します。</p> <p>** 測定値は、片面印刷にのみ適用されます。両面印刷の場合、最小サイズは 139.7 × 210 mm (5.50 × 8.27 インチ) です。</p> <p>*** 用紙の大きさがソフトウェアアプリケーションで指定されていない限り、用紙または封筒を 216.0 × 355.6 mm (8.5 × 14 インチ) に書式設定します。</p> <p>**** フィニッシャトレイ 1。フィニッシャトレイ 2 には、A4 サイズおよびレターサイズ以外給紙できません。</p>						

用紙の仕様

各種オプションでサポートされる用紙

凡例 ✓ - サポート ✗ - 非サポート	550 枚 カセット	多目的 フィーダ	オプションの 高容量フィーダ	オプションの 両面印刷	オプションの フィニッシャ
用紙	✓	✓	✓	✓	✓
厚紙	✓	✓	✗	✗	✓
OHP フィルム	✓	✓	✗	✗	✓
バナー	✗	✓	✗	✗	✓ ¹
用紙ラベル	✓	✓	✗	✗	✓
封筒	✗	✓	✗	✗	✓
光沢紙	✓	✓	✗	✓	✓

¹ バナーサイズ用紙は、フィニッシャトレイ 1 以外には出力できません。

用紙の種類と重さ

凡例 ✓ - サポート ✗ - 非サポート	用紙	種類	用紙の重さ	
			550 枚カセット	多目的フィーダ
	用紙	ゼログラフィまたはビジネス用紙 (片面印刷に使用) ¹	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²
		ゼログラフィまたはビジネス用紙 (両面印刷に使用)	75 ~ 176 g/m ² 縦目 (20 ~ 47 lb ポンド)	75 ~ 176 g/m ² 縦目 (20 ~ 47 lb ポンド)
	光沢紙	ブック	88 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 120 lb ブック)	88 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 120 lb ブック)
		カバー	162 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 65 lb カバー)	162 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 65 lb カバー)

¹ 75 g/m² (20 lb ポンド) 未満の重さの用紙は、60% 未満の相対湿度での片面印刷のみに制限されます。
² 両面印刷では、どの給紙源でもこの用紙の重さをサポートしていません。
³ 60 ~ 176 g/m² (16 ~ 47 lb ポンド) の用紙の場合は、縦目の繊維を推奨します。176 g/m² (47 lb ポンド) より重い用紙の場合は、横目を推奨します。
⁴ 圧力に敏感な部分が最初にプリンタに入ります。
⁵ 100% コットン含有率の最大重量は 90.2 g/m² (24 lb) ポンドです。
⁶ 105 g/m² (28 lb ポンド) の封筒は、コットン含有率が 25% に制限されます。

用紙の仕様

用紙の種類と重さ (続き)

凡例 ✓ - サポート ✗ - 非サポート	用紙	種類	用紙の重さ	
			550 枚カセット	多目的フィーダ
	厚紙 - 最大 (縦目) ^{2, 3}	インデックスブリストル	163 g/m ² (90 lb)	163 g/m ² (90 lb)
		タグ	163 g/m ² (100 lb)	163 g/m ² (100 lb)
		カバー	176 g/m ² (65 lb)	176 g/m ² (65 lb)
	厚紙 - 最大 (縦目) ^{2, 3}	インデックスブリストル	199 g/m ² (110 lb)	199 g/m ² (110 lb)
		タグ	203 g/m ² (125 lb)	203 g/m ² (125 lb)
		カバー	216 g/m ² (80 lb)	216 g/m ² (80 lb)
	OHP フィルム ²	レーザープリンタ	161 ~ 192 g/m ² (43 ~ 51 lb ポンド)	161 ~ 192 g/m ² (43 ~ 51 lb ポンド)
	ラベル - 最大 ^{2, 4}	用紙	180 g/m ² (48 lb ポンド)	199 g/m ² (53 lb ポンド)
	封筒 ²	亜硫酸パルプ、上質紙、または最大 100% のコットンポンド紙	適用不可	60 ~ 105g/m ² (16 ~ 28 lb ポンド) ^{5, 6}

¹ 75 g/m² (20 lb ポンド) 未満の重さの用紙は、60% 未満の相対湿度での片面印刷のみに制限されます。

² 両面印刷では、どの給紙源でもこの用紙の重さをサポートしていません。

³ 60 ~ 176 g/m² (16 ~ 47 lb ポンド) の用紙の場合は、縦目の繊維を推奨します。176 g/m² (47 lb ポンド) より重い用紙の場合は、横目を推奨します。

⁴ 圧力に敏感な部分が最初にプリンタに入る必要があります。

⁵ 100% コットン含有率の最大重量は 90.2 g/m² (24 lb) ポンドです。

⁶ 105 g/m² (28 lb ポンド) の封筒は、コットン含有率が 25% に制限されます。

メモ：テキストのみの場合、60 g/m² (16 lb ポンド) 用紙に印刷できます。

用紙の容量

凡例 ✓ - サポート ✗ - 非サポート					
用紙の種類	550 枚カセット	多目的フィーダ	オプションの 高容量フィーダ	オプションの フィニッシャ トレイ 1	オプションの フィニッシャ トレイ 2
用紙	550 枚*	100 枚*	3000	100	1000
厚紙	150 ~ 200 枚**	45 ~ 55***	✗	100	✗
用紙ラベル	200	55	✗	30	✗
ビニールラベル	✗	55	✗	30	✗
OHP フィルム	150	50	✗	50	✗
封筒	✗	10 (Com 10)	✗	10	✗
* 75 g/m ² (20 lb) の用紙の場合。 ** 121 ~ 165 g/m ² (33 ~ 44 lb) の厚紙 200 枚または 216 g/m ² (102 lb) の厚紙 150 枚。 *** 121 ~ 165 g/m ² (33 ~ 44 lb) の厚紙 45 枚または 216 g/m ² (102 lb) の厚紙 55 枚。					

カセットをリンクする

複数の給紙源に同じ大きさと同様の用紙がセットされている場合は、カセットをリンクして自動リンク機能を使用できます。プリンタはカセットを自動的にリンクします。1つのカセットが空になると、リンクされている次のカセットから給紙されます。

たとえば、同じ大きさと同様の用紙がカセット 1 とカセット 2 にセットされている場合、カセット 1 が空になるまではカセット 1 の用紙が選択され、カセット 1 が空になると、リンクされている次のカセットであるカセット 2 から給紙されます。

両方のカセットをリンクすることで、1100 枚まで給紙可能な 1つの給紙源となります。

各カセットに同じサイズの用紙をセットする場合は、用紙がすべて同じ種類であることを確認してカセットをリンクしてください。

選択したカセットに同じ大きさと同様の用紙をセットしたら、[用紙メニュー] で同じ [用紙の種類] の設定を選択します。

カセットのリンクを無効にするには、それぞれのカセットの [用紙の種類] を異なる値にします。リンクするカセットの用紙の種類が異なる場合は、ジョブが誤った用紙に印刷されることがあります。

両面印刷機能を使用する

両面印刷により 1 枚の用紙の両面に印刷できます。用紙の両面に印刷することにより、印刷コストを削減できます。

両面印刷に使用可能な用紙の大きさについては、「用紙サイズとサポート」を参照してください。

両面印刷ジョブごとに印刷を行うには、プリンタドライバで【両面印刷】を選択します。

レターヘッド紙に両面印刷する

カセットからレターヘッド紙に両面印刷する場合は、ロゴがある面を上にして、ロゴがある側からプリンタに給紙されるようにセットします。

両面綴じ印刷を使用する

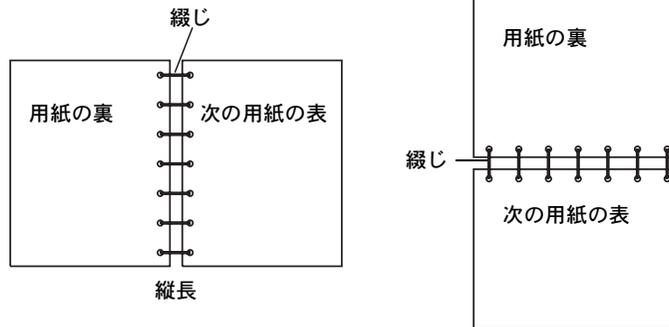
プリンタドライバまたは【仕上げメニュー】にある【両面印刷の綴じ方】で両面綴じ印刷を選択する場合は、【長辺】または【短辺】を設定値として選択する必要があります。両面綴じ印刷の目的は、両面印刷されたページの綴じ方と、表面（奇数ページ）の印刷に対する裏面（偶数ページ）の印刷方向を指定することです。

【両面印刷の綴じ方】の2つの値は次の通りです。

長辺*

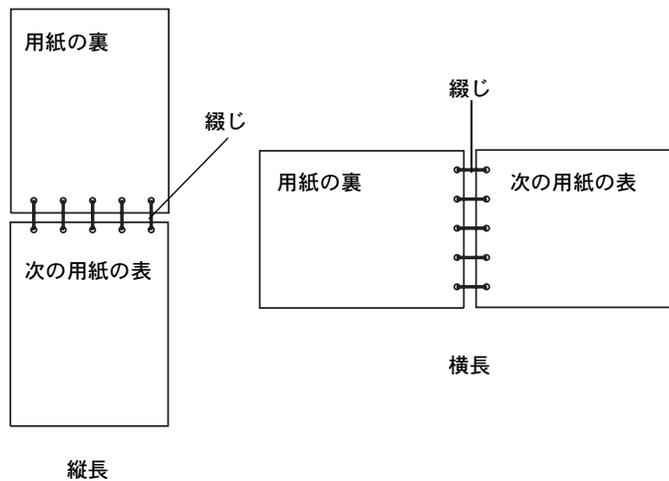
アスタリスク(*)は、【長辺】が出荷時の標準設定であることを示しています。

ページの長辺に沿った綴じ（縦方向の場合は左綴じ、横方向の場合は上綴じ）。以下の図に、縦方向および横方向の長辺綴じを示します。



短辺

ページの短辺に沿った綴じ（縦方向の場合は上綴じ、横方向の場合は左綴じ）。以下の図に、縦方向および横方向の短辺綴じを示します。



紙づまりを防ぐ

適切な印刷用紙（用紙、OHP フィルム、ラベル、厚紙）を使用することで、問題のない印刷を行うことができます（⇒「給紙源と仕様を確認する」）。

メモ：プリンタでの使用を検討している印刷用紙を大量に購入する前に、少数のサンプルを印刷してみてください。

適切な印刷用紙を選択して、正しくセットすれば、ほとんどの紙づまりを防ぐことができます（⇒「標準カセットおよびオプションカセットに用紙をセットする」、「多目的フィーダに用紙をセットする」、または「高容量フィーダに用紙をセットする」）。

以下の手順に従うことで紙づまりを防ぐことができます。

- 推奨された印刷用紙のみを使用する。
- 印刷用紙を積み重ねすぎない。重ねた用紙の高さが、カセットのセットラインラベルで示されている高さの上限を超えないようにする。
- しわ、折り目、湿気を含む印刷用紙、あるいは丸まった印刷用紙はセットしない。
- ほぐしたり、バラバラめくったり、端を揃えたりしてから印刷用紙をセットする。印刷用紙の紙づまりが発生した場合は、多目的フィーダから用紙を1枚ずつ給紙してみる。
- ユーザーが切った印刷用紙は使用しない。
- 印刷用紙の大きさ、重さ、種類が異なる印刷用紙を1つのカセットにセットしない。
- 片面印刷するか両面印刷するかに合わせて、給紙源で推奨される印刷面がセットされていることを確認する。
- 適切な環境で印刷用紙を保存する（⇒「その他の用紙を保管する」）。
- 印刷ジョブ中にカセットを取り外さない。
- 用紙をセットしたらすべてのカセットをしっかりと押し込む。

カセットのガイドが、セットした印刷用紙の大きさに合った正しい位置にあることを確認します。ガイドが印刷用紙をきつく挟みすぎでないことを確認します。